

海域全般に、大型珪藻コシノディスカスの発生量は前回(12/16)同様少ない状況ですが、西播地先では大型珪藻のユーカンピアが確認され、赤穂漁場では小型珪藻のスケレトネマ、キートセロスが依然やや多く確認されます。窒素は、陸水等の影響が見られる地点を除き西播地先で1~3 $\mu\text{g-at/L}$ 台、沖合漁場で2~3 $\mu\text{g-at/L}$ 台の値となっています。

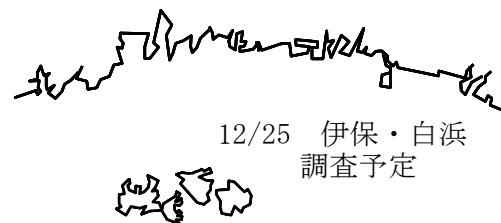
(珪藻、栄養塩)

各海域のコシノディスカス発生量は海水1Lあたり、西播地先で0~10細胞(前回値:0~10細胞)、沖合漁場で0~25細胞(前回値:10~55細胞)であった。

赤穂漁場以外の西播地先では、スケレトネマ、キートセロス等の小型珪藻はわずかに確認される程度であった。

網干漁場では陸水の影響により、アンモニア態窒素の値が高くなっていた。

水温図



		前回値	今回値	平年値	昨年値
西播地先	窒素	3.8	3.0	2.3	2.2
	リン	0.46	0.44	0.55	0.47
家島・坊勢	窒素	2.8	2.8	4.4	2.2
	リン	0.60	0.57	0.65	0.58

(12/16)

(12/26)

栄養塩(窒素)図

2025年12月24日調査

